



一般社団法人
大学女性協会
東京支部会報

- TOMOSHIBI -
Journal of Tokyo Chapter
Japanese Association of
University Women
<http://www.jauw.org>



新しい「場」の創出を！

大学女性協会会長 鷺見八重子

東京支部会員の皆さま、日頃は本部事務所のお膝元ということで多大なご尽力をたまり、まことに有難うございます。

私は2004年の5月に国内奨学委員長として初めて理事會に参画して以来、四谷三丁目のマンションにかなり足しげく通うようになりました。本部は、私にとって会議の場だけでなく、勉強の場、そして大切な出会いの場でもあります。

昨年9月、思いがけず会長に就任し、本部はますます親しい場になりました。創立70周年事業を滞りなく終えて今思うことは、地の利を得たこの場を最大限に有効活用して、何か新しい事業を立ち上げられないかということです。

当協会は現在、移行法人として四つの継続事業を行っていますが、同時に新規事業を企画し、将来に備えなければならない時期を迎えています。若い世代が必要としていることは何か。教育支援、就労支援、子育て支援など多様な支援が求められている昨今、私たちの知恵と経験を生かして社会に貢献するとしたら、どんな活動や方法があるでしょうか。

この場で、若い世代が必要とすることをする——例えばパソコン教室、すぐに役立つ英会話、翻訳入門塾、人生相談窓口「メンターカフェ」等々——本部事務所の活用から始めたらどうでしょう。本部へ通える方、夜間でも大丈夫な方、あれこれ伝えたいことのある方、東京支部の方々のお知恵を拝借したいと切に願っております。

ご挨拶に代えて、よろしくお願い申し上げます。

会員それぞれのかかわり方に 支えられて

支部長 中山 正子

昨春秋、JA UW創立70周年祝賀會が催されました。長い歴史を振り返り、発足当初の理念を学ぶよい機会になりました。この間、東京支部でも様々な活動が続けられてきました。1987年1月には支部會報「ともしび」創刊号が発行されました。會報が会員の情報交換の場となり、会員と委員會をつなぐよきパイプ役になりますようにと、当時の吉武勇子支部長が述べられています。それから30年、この61号では70周年にちなんで会員の寄稿特集「私とJA UW」を組みました。このように会員それぞれのかかわり方でJA UWは支えられていることを読みとっていただければと思います。



釜堀裕子さんにチャレンジ奨学金を贈呈

今後とも会員相互の親睦の輪が広がり、元氣な支部でありますことを祈りながら、ランプの灯をともし続けていきたいと思ひます。4月8日の支部總會で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

東京支部總會のご案内

2017 4月8日(土) 11:00-15:30

会場：グランドプリンスホテル新高輪 B3「イルレオーネ」

懇親會費：3,500円(東京支部会員は2,500円)

▶ お席は自由です。

▶ 懇親會、講演會には、支部会員以外の方のご参加も歓迎します！

PROGRAM

● 第1部 東京支部總會議事(11:00-)

● 第2部 懇親會・會食(12:15-)

ランチとワインでご飲談ください

● 第3部 講演會(13:45-)

「司法の中の女性—日本の法律とジェンダー平等—

—女性差別撤廃委員會の審査から—

弁護士・國連女性差別撤廃委員會前委員長 林 陽子氏



會員作品 「追憶」

会場で水墨畫教室會員の作品を展示します。

寄稿特集

『私とJAUW』
— JAUW創立70周年を迎えて —

JAUWは昨年創立70周年を迎えました。2016年11月12日(土)13日(日)には、その記念事業が行われました。祝賀会では、女性の高等教育の推進、女性の地位向上に向けて尽力された先輩方の姿や、若い人への支援の活動を、「JAUWのあゆみ」と題したDVDで確認させていただきました。公開記念講演会は、常に社会と向き合って映画製作をされている松井久子監督に、自立のための体当たりの人生を語っていただきました。

13日のコンサートでは、ミカ&リチャード・ストルツマン夫妻によるマリンバとクラリネットの演奏を多彩なプログラムで堪能しました。

これらの報告はJAUW会報第259号に詳しく掲載されています。この良い機会に、「ともしび」にも、会員の方のJAUWとの関わり方を綴っていただこうと、この特集を企画しました。

JAUW創立70周年
心からお祝い申し上げます！

中村 道子

戦後、占領時代、文部省の嘱託として大臣、次官の通訳を勤めていた頃、当時の山崎匡輔文部次官夫人に誘われてJAUWのお手伝いをし、1949年に会員となり、今日に至っています。

思い出は色々ありますが、その中でも当時の大島清子会長と一緒に文部省へ日本の女性のための教育会館を要請に行き、1977年に国立女性教育会館(NWEC)ができたことは大きな喜びでした。JAUWとしてはお祝いに現在本館の前に、今は立派に育ちました泰山木を寄贈致しました。

JAUW会長の時、1979年7月30日～8月3日にNWECとしては初めての国際会議「IFUW汎太平洋地域セミナー」よりよき明日に向かって」を開催し、21カ国から60名、日本から170名の会員が参加し、会期中、朝から夜中まで、熱心に討議し、交流しました。当時、NWECにはまだ冷房装置がなく、暑さのため、参加者はよくプールへ行ったものでした。また、通訳のブースはまだ使用できない状態でしたの

で、通訳はさぞかし大変だったことと思います。

その後、私はIFUWの会員委員として殆ど毎年ジュネーブで開催された委員会とIFUWの国際会議に出席し、1995年の横浜でのIFUW会議に出席したのが最後でした。

JAUWの今後の活躍を大いに期待申し上げます。



口コ入りシャツ姿の中村道子会員
(横浜でのIFUW国際会議)

教育委員会の片隅より

東山 セツ子

1. 入会は眩きから
桜蔭会総会の帰途、牧島悠美子さんと同行。私が「今年度でお茶の水地理学会会長を終わりにする。2期4年経つから」とつぶやいた。彼女は大学婦人協会の会員とのこと。私は「それなら入会しなくては」と即断してしまっただけ。

2. 活動の第一歩は「地誌」

JAUWは「アッサラーム・アレイクム」の時代。地理屋なのだから西アジアの自然と社会について話をするように命ぜられた。教育委員会の仕事は入会手続き完了以前から始めていたが、それも未だあまり行っていない頃のこと。西アジアは文字・宗教等、文化・文明の発祥地。その中でイスラエルとアフガニスタンの2カ国が両極端の数値を示している点が印象に残っている。

3. 教育委員会活動

(委員長・理事'06～'09)

教育委員会はJAUW全国セミナーに毎年参加している。初夏には具体的なテーマを設定、夏にはアンケート調査を質問票の郵送や訪問によって実施。集計や内容のとりまとめの後、秋季の全国セミナー発表用冊子を作成して口頭発表に漕ぎつける。JAUW報告書用の原稿を本部に提出し、3月には、その成果が報告書に掲載されている。

2007年度は「教育とジェンダー」のテーマの下、「大卒女性と就労」企業で働く女性の実態と企業の大学教育への期待」で発表。40社からのアンケート回答をまとめた。他年度には33の大学・研究機関や大学構内設置の保育所について、アンケート及び訪問調査を行った。最終の報告書には調査・研究結果に基づいて幾つかの提言を記した。

JAUW会員としての64年

島 美喜子

私がJAUWに入会したのは1953年、当時お茶の水女子大学化学科教授でいらした吉田武子先生のおすすめによるものであったが、以来、64年が過ぎたことになる。

女性問題に特別な関心があったわけではなかったが、私にとってJAUWは女性の友人に出会う唯一の機会になったと思う。

私は高分子物理化学を専門としたが、当時はまだ女性科学者は極めて少なく、国内の学会や後に客員研究員として2年間を過ごしたニューヨーク大学の研究所や国際会議等でも女性に会うことは稀で、殆ど男性社会の中で暮らすような状況であった。

日常は夜も研究室に残って実験に専念するような生活であったので、JAUWのために寄与する余裕は殆どなかったが、顧みると長い年月の間には辞退しきれずにお引き受けしたことも少なからずあったように思う。

氏家寿子会長の時、私は38才であったが、国内奨学委員長を3年間、竹中はる子会長、中村道子会長の時には国外奨学委員長を4年間務めた。また、東京支部長を引き受けるように再三すすめられ困惑して、東京女高師(現、お茶の水女子大学)の同窓生である丸山庸子さん、

加藤恭子さん、山中照子さんに

JAUWへの入会を勧めることにした。

丸山さんは東京支部長、後には会長を、加藤さん、山中さんも副会長を引き受けられることになって、私はやっと役目を果たしたつもりでいた。

しかし、1998年には多くの方々からの要請で、科学研究奨励賞の創設とその運営に6年間、再び委員長を務めることになった。これは、東京女高師化学科の卒業生で、長年、中学、高校の教育に尽くされた守田純子さんから遺贈された基金によって設けられたものであり、40才未満の若い研究者を対象に毎年2名、50万円ずつを贈ることにしたが、当初は先ず、相応しい選考委員会を構成することが重要であった。幸い、毎年、優秀な研究者が応募され、JAUWにとって非常に重要なProjectとなったことは喜ばしいことであった。

その他、1974年、京都国際会議場でのIFUWの総会の際、高野フミ先生からの依頼で、Business Sessionに日本代表の1人として出席したことも、今となっては懐かしく思い出される。

島美喜子さんが委員長を務められた「守田科学研究奨励賞」の第1回の贈呈式の写真を、5ページに掲載しています。写真コーナーもご覧ください。

JAUWこれから

ときえだ ひろこ

この二十余年来、年末近くになると「今年の漢字」という、一般公募(理由つき)で最多数になった一字が、清水寺(京都)の舞台で特筆大書される行事があります。2016年は「金」でした。JAUWにとってはGWIの分担金値上げ問題に悩まされたこの一年、妙に実感のある結果です。何と「金」は以前(2000年と2012年)にも選ばれた字とのこと、そのつど理由は違うのでしうが3回目ともなると、考えさせられます。

IFUW京都総会の少し前から会員の古狸です。年会費が高いと感じたことなしです。木の葉を日銀券に化けさせて納めていたからではありません。毎年、もしJAUWに入っていないければ、幸い同じ時代に生きてはいても、お会いするご縁はなかったのだと思う方々にお顔を合わせお話しできる機会が何回となくあります。それらは一刻千金の何倍と見積もれるのですが、その際の延人数で年会費を割る、細か過ぎる様な計算(概算百円未満/人・回)もしてごらん遊ばせ。

これと比べるのは、話の内容的に失礼なのですが、最近のシニア・ホームで、お話相手サービスという有料ケアがあり、たとえば、10分間300円(原則とし

て秘密厳守)等は、JAUWのどちらかと言うとシニア新会員勧誘の参考データになるでしょうか。

心身の健康のためには、会話が何より大事な時代になりました。JAUWのおかげで、私にも新しいお友達が、何とお葬式帰りに見つか、故五十嵐康子様の霊に感謝している昨今です。これからロシアと日本の関係の新展開が予想されることも、この出会いで気付かされました。ほんとうの平和には、金よりも知恵と友情が必要、元氣を出しましょう。

大学女性協会から学んだこと

向後紀代美

私が大学女性協会に入ったのは、1990年代半ば。長らく大学の非常勤講師をやった後、50代になって初めて正規の教員になれた東北学院大学のある仙台支部でのことであった。

当時の会員には地元の名士の奥様方が星の如くおられた。宮城県知事、仙台市長、有名ホテルやデパートオーナー、元国会議員の夫人などである。もちろん渋谷さんのようにご本人が仙台フィルのミストレスとして活躍している方もおられたのだが・・・

皆様、とても謙虚で、記念写真を撮る時も中央の席を譲り合う姿がとても印

象的であった。というわけで多数ある他の女性団体が女性の権利を正面きって要求するのは少しちがっていた。しかしである。私は発見したのだ。そのような奥様方の影響力の方が時には、大きいことを・・・

私がNGO活動で通っているミャンマーでも国連は女性を弱き存在として扱っている。確かに正面はそう見える。しかし、十数年同じ村々に行くうちに気がついた。実はかかあ天下で、男性は奥さんに相当気をつかっていることに。中東でも同じ経験をしたことがある。

日本の女性の地位は世界の他の国と比べて低く、近年さらに低下しているといわれる。でも、寿命は世界一、その乖離の謎を解く鍵に今興味を持っている。ジェンダー指数というものさしは違っているのか？

でもやっぱり女性というだけで高等教育を受けられない時代が長く続いたのはおかしい。その点大学女性協会が戦後すぐ、70年も前から奨学金制度を女性に限って授与しているのは、他の女性団体にはない良い特色だと思う。

そういう意味で、現在、私が国内奨学委員長の任にあることはありますが、予想以上に大変なこともあります。皆様のご指導ご協力を得て精一杯頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

東京支部長時代の回想から

丸山庸子

東京支部長をお引き受けしたのは、1980年から1981年までのこと、40年近くも前のことでした。

1980年といえば、1979年にスタートした「国連婦人の十年」の中間年に当たり、コペンハーゲンで世界女性会議が行われ、またデンマークでは「女子差別撤廃条約」の署名式があり、初の女性大使高橋典子氏が署名されるという、私達女性にとって輝かしい、忘れぬ年でした。IFUW総会では高野フミ氏がアジアから初めてIFUWの会長に選出され、これまた言い知れぬ高揚感を持ったのを覚えています。

また、制度や人材のみの登用だけでは、こうした女子差別の習性は変化しません。本気でこの差別を哀しみ怒り、変革の熱意が動かねばならないのではないのでしょうか。変わらないのは、人々がそこまでの変革は望んでいないと考へざるを得ません。

しかし今の東京支部には何とも言えない優しい雰囲気があります。支部長及び幹部の方々の人格の反映という影響もあるのでしょうか。

またもうひとつ、東京支部の皆さんには何か花があります。これは女性特有のもので、男性には少ないものです。優雅さというか、何か優しさや似てい

て少しがう気品のようなもの。それは女性特有の相手をゆるめる品性といったらよいか、この品性ある聡明さこそ、これから世界で和していくためには是非とも備えたいことだと思っています。思い起こせば、それはIFUW横浜大会や事務所購入に伴う様々な活動でも、至る所で発揮されました。どうぞこの品性ある聡明さを代々伝えてくださることを望むものです。

戦争という殺しあいを廃し、互いの話し合いの上に立つて平和を築きうる道は、けっして絶望的ではありません。それは、女性に与えられた大きな役割と考えられないでしょうか。

茶髪から白髪へ

富樫絢子

JAUW70周年記念特集会報の祝賀会風景欄に、ゲストの西村篤子氏（外務省女性・人権人道担当特命全権大使）と、旧友辻英子会員に囲まれて白髪私の写真が掲載された。

四十余年前、母校（日女）関連のボランティア団体WILPFに初めて参加した際、故辻キヨ会長（辻英子氏の義母堂）と故西村章子副会長（西村篤子氏母堂）の姿は眩しく、常に私の一歩先で輝いていた。

同時期JAUW東京支部会員となっ

た私は、京都や武蔵嵐山で開かれた国際会議、全国各地で行われた総会等に参加するにつれ、出身校毎に多彩で個性的、有能な女性達の活躍ぶりに目を瞠り、みのり多い20年間となった思い出は今なお尽きることがない。殊に会員名簿の作成、新大久保から四谷左門町の現事務所への移転等に理事会メンバーの一員として関わったことは記憶に新しい。

当時、故伊東すみ子元会長（法律家）の御縁で東京支部主催の「法律講座」を支部長として開催したところ、或る会員から法律に関心があるのではと、調停委員（東京簡裁民事）に推薦された。日照権、交通事故、サラ金事件等々問題山積の裁判所。男性社会の霞が関に茶髪で入り、司法委員、鑑定委員（地裁不動産）を勤めて四半世紀、心ならずも左門町からは足が遠のいてしまった。

公職を退いて傘寿を迎え、久々に参加した70周年記念の集いの終わる頃、青木怜子元会長や中村久瑠美前会長等お懐かしい方々にお目にかかって旧交をあたため、西村篤子氏がJAUWの会員になってくださるとか伺って、次のおもじを今から楽しみにしている。

アメリカでイギリスで、政治の予測が尽くはずれ、世界が乱気流にもまれ出した今、私は細々とした白髪を夫と共に愛しつつ、カナリア諸島の洋上でバースデイを迎えようと八十路の旅の途上にある。

あの頃の東京支部

片柳
洋子

予期せぬ主人の突然の死去で茫然自失の時、友人の誘いで「源氏物語を読む会」に入ったことが、私の大学女性協会との出会いであった。

その頃東京支部は会員数も多く、坂上新支部長のもとで委員全員やる気に溢れていた。私は講座見学委員になり、河井、紅林チーフを含め5人の委員で、2年間に講演会12回、見学会を2回行った。その中で憲政会館での相馬雪香さん、杉原千畝夫人幸子さん、湯川れい子さん、末延吉正さん等々が特に印象深い。ちなみに司会係は新米の私であった。

古河庭園見学会や学士会館でのクリスマスコンサートも好評で楽しかった思い出である。

「責任は私が持つから思うように進めてみたら」という支部長の言葉に励まされて、準備、下見、交渉等々全てが頑張れたのだと思う。

2001年春、44回通常総会は東京で行われた。会場のアルカディア市ヶ谷から見た満開の桜とその上に積もった時ならぬ雪の眺めは今でも目に鮮明に焼き付いている。

講見講座見学委員）は総会後の見学会の担当であった。私は友人のご主人が寛永寺の中の現龍院住職（現、寛永寺長脇）だったご縁で、皇居と上野寛永寺見学バスツアーの係となった。徳川家

の墓所や十五代將軍慶喜公の謹慎の間等普通では入れない場所を浦井住職のご説明付きで見学できたことは嬉しく思つた。

この総会は東京支部ならではのものだったと他支部の方々から好評であったとか。講見もその一助にはなったのではないだろうか。

源氏の会では第1回源氏ゆかりの地を巡る京都の旅があった。大学は関西だった私なのに、あんなに満開の桜の京都に行き合つたことはなかった。桜満開の鴨川縁を歩いた1時間余りが今でも忘れられない。

その後東京支部では書記、副支部長を務めたが現在では都合で「源氏物語を読む会」のみに通っている。

主人が逝ってから20年、気付くとこの会の方々から元氣をもらい、廻りには出会った沢山の友達が居てくれる。

● ● ●
そえがき
● ● ●

この度は中村道子様はじめ8名の方からこのような素晴らしいご寄稿をいただきました。ご協力に心より感謝申し上げます。お読みいただいた皆様も、JAUWでのあんなこと、こんなこと、いろいろ思い出されたことでしょう。今後も「私とJAUW」のコナーを随時掲載してまいりますので、どうぞお気軽にご投稿ください。お待ちしております。

支部長 中山正子

東京支部思い出の活動



支部主催皇居見学会 2007.10



第1回守田科学研究奨励賞贈呈式
1999.5



支部主催講演会 杉原幸子氏
(夫君千畝氏の遺志を継いで) 2000.12



第 44 回総会後の寛永寺見学 2001.4



横浜での IFUW 国際会議 一日本の四季一 東京支部は「七五三」を担当 1995.8



フラワーアレンジメント講習 留学生と門松リース作り 2000.12



源氏物語を読む会 京都へ研修旅行 2008.10

東京支部チャレンジ奨学生紹介

2016年度チャレンジ奨学生に、釜堀裕子さん(上智大学総合人間科学部看護学科3年)が決定しました。奨学金(20万円)の贈呈をJAUW事務所で1月28日に行いました。

釜堀さんは1989年慶應義塾大学法学部を卒業後、日本アイ・ビー・エム株式会社に入社し、社内システム開発、マーケティング部門等にて25年にわたり勤務しました。

10年程前に母親が脳出血を患った際に、患者の生命だけでなく生活を支える知識と技術とを有する看護師の意義と価値を知り、そして、先の東日本大震災を機に、全く別分野である医療分野の専門職を目指して新たに学び直し、看護師国家資格を取得して人材不足と言われる看護医療の担い手になろうと考えました。

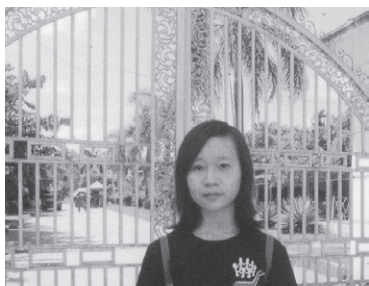
2014年に上智大学入学後は、「他者のために、他者とともに」の理念の下に、インド・コルカタのマザーテレサが設立した施設でボランティア活動をしたり、趣味の音楽を生かせる音楽療法を提携校で履修する等、医療を取り巻く周辺の知識習得にも努めています。一般企業で長く勤務した経験を活かし、働く世代の疾病罹患予防や職場復帰を支援する産業保健師を目指しています。

(1ページに釜堀裕子さんの写真を掲載)

東京支部国際奨学生紹介

【新奨学生にナウさん決定】

向後紀代美会員の友人であるマウン・マウン・タン氏「RECOFTC(森と人センタ)ミャンマー代表、横浜国大で博士号取得」から推薦をいただいて、2016年度国際奨学生に、ヤンゴン大学工業化学専攻1年生のナウ・サル・ガイ・ムー(Nay Saung Mye)さんが決定しました。カレン民族の女性で、強い向学心をもつて、勉学に取り組んでいます。社会活動にも熱心に参加し、将来はミャンマーの発展のために役立つ人になりたいと大きな夢を持っています。父親は小さな農園を営んでいます。生活は貧しく、奨学金は年額4万円という額ですが、卒業まで支援を受けられることは大変ありがたいことです。フィリピンのリンレンさんも、2018年まで、引き続き支援していきます。色々な困難を乗り越えて、無事に卒業できますように、東京支部の国際奨学生を皆で見守りたく思っております。



ヤンゴン大学の前でナウさん



民族衣装のリンレンさん

【リンレンさんからの近況報告】

紹介者山崎登美子さん(ビラートの医療と自立を支える会)を通して、国際奨学生リンレン・サプルさん(フィリピン)から、近況報告が届きました。勉学を第一に集中して2年次も良い成績を取め、後期授業の登録をすませたこと、また休暇には農園で兄弟たちを手伝って、家族の絆を深くした喜びが書かれていました。ビラートの民族衣装で装った写真も添えられていました。この伝統的な衣装は、結婚式やフェスティバルまた儀式などの特別の日に着るとのこと。髪飾り、イヤリング、ネックレス、ベルト、ブラウス全て手の凝ったハンドメイドで、丈夫な貝のビーズが使われ、上着にはクロスステッチが色鮮やかに施されています。家族に代々伝わる「カマギ」と呼ばれるネックレスは、鈴やコイン、動物の歯、貝、きれいな石で作られ、大変高価なものでビラート民族の証であり、それを身に着けるのは結婚が決まったお祝いの時だそうです。

東京支部推薦

JAUW国内奨学生について

本部の国内奨学生の募集と一次選考は、各支部に委任されています。

2016年度東京支部では、6月に募集書類を東京支部圏(東京都および東京支部会員が在住する支部のない県)の62大学へ送付しました。8月末日の締め切りには、26大学から32名(一般25名・社会福祉3名・安井医学4名)の応募がありました。書類選考の上、社会福祉と安井医学は応募者全員を、一般は、支部選考委員の選考により25名を12名に絞り、支部推薦応募者として本部へ提出しました。本部選考と理事会承認を経て、東京支部からは次の5名の奨学生が誕生しました。

- ・ホームズ奨学生
高木佳奈(東京外国語大学大学院総合国際学研究所)
- ・一般奨学生
内藤千尋(東京聖雲大学大学院連合学校教育学研究所)
鏡味沙耶(東京工業大学理学院地球惑星科学系研究科)
松本亜里奈(琉球大学大学院農学研究科)
- ・社会福祉奨学生
中松真紀(早稲田大学大学院政治学研究科)

2017年1月7日に行われた「新春のつどい」第1部の国内奨学金贈呈式で、鷺見八重子会長から奨学金が授与されました。奨学生の一層の活躍を期待します。

見学会報告

農大見学 与えられた環境の中で生き抜く

小池朋子

9月15日東京農業大学「食と農」の博物館見学に参加しました。

まず魚介類が専門の研究員の案内でオオジャコガイの巨大な貝殻や深海魚シーラカンスのレプリカ、流水の天使と言われるクリオネ等を見学。水槽に金魚を入れ、その金魚が一瞬にしてナイフフィッシュに食べられてしまう様子も見せてもらいました。金魚は藻を食べ、金魚をナイフフィッシュが食べ、そのナイフフィッシュを人間が食べるという食物連鎖。地球上のすべての命が何らかの形で繋がっているのです。

2階には卒業生が手掛けた酒300本の蔵元の7割が農大卒とのこと。また古農具も大切に遺されていて、中には幼少時見たことのある懐かしい農具もあり、当時の農家の人々の大変さが偲ばれました。

隣接のバイオリウムには世界中の貴重な動植物が集められていました。『星の王子さま』に登場するバオバブの木や、葉の粘液で髪が洗えるシャンプーの木、たる型サボテン等に目を見張りました。今まで木と草は別の物の

ように思っていました。木から草へと進化していったとのこと。長い時間の中での進化の積み重ねに、自然への畏敬の念を抱きました。

樹上に寝そべっているイグアナ、大きなケヅメリクガメ、親子で寄り添い眠っている可愛いレムール（マダガスカル原産）等、まるで外国の動物園にいるようでした。

植物も動物も与えられた環境の中で生き抜くために色々な特性や知恵を身につけています。厳しい自然の中で子孫を残していくためには毎日が「たまたか」です。冷暖房の整った家に住み、些細な天気の変化にも愚痴や不満を言っている最近の自分が恥ずかしくなりました。

生命の不思議さや地球の動植物の多様性に触れ、美味しいランチでお腹も一杯になり、充実した一日でした。お土産に買った切干し大根入りクッキーも美味しかったです！



大きなケヅメリクガメと対面

築地外国人居留地の史跡巡り

晴天に恵まれた2016年12月5日、阿部幸子会員のご案内で「築地居留地の史跡巡り」が催された。

青山学院女子短期大学で40余年余り教鞭をとられた阿部さんは、青山学院の源流の一つである海岸女学校が築地居留地にあったことを知って、この界限に興味を持たれたと伺う。2016年はカトリック教会において特別聖年の年であるので、そのまま現存する築地教会を訪ねるのも意味があるのではないかと、築地居留地の史跡巡りを提案してくださった。

「1858年（安政5年）に江戸幕府が欧米5カ国と修好通商条約を結んだ後に、横浜・神戸などの5港が開港し、それぞれ外国人居留地が作られたが、江戸（東京）の居留地は明治元年に開設された。築地・明石町の地域は鉄砲洲とよばれた地域で、墨田川に面した地域は河岸場として使われ、内陸部分には大名などの武家屋敷が林立していた。築地居留地には、外国公使館や領事館が

置かれ、海外からの宣教師、医師、教師などの知識人が居住し、多くの教会や学校、また病院などが建てられた」（当日の資料より）

資料を手には女子学院、青山学院、明治学院、雙葉学園、暁星学園など発祥の地を巡った。また立教学院記念碑から道路を隔てて「慶應義塾発祥の地」「欄学事始地」の石碑も建っている。カトリック築地教会はアドベントのこの時期、クリツペ（キリスト誕生の厩）が飾られてあった。指紋の発見者として有名なヘンリー・フォールズが開設した病院をトイスラー医師が買い取り、聖路加病院が始まったことも教えていただいた。

たくさんの方の発見を楽しんだあとは、聖路加ガーデン内の銀座クレストンホテルでティータイム。テーブルでは、「一人だったら何も知らず、通り過ぎてしまっていた」「資料が整っていて、これをもとに今度は案内役をしたい」等々。最後に阿部さんから、内田魯庵随筆集「築地の居留地の思い出」の一節をご紹介いただき、充実した午後の見学会を終えた。



トイスラー記念館の前で



フラワーアレンジメント講習会

11月29日、講習会を待ち望んでいた会員は講師の河井尚子委員からフラワーボックスを教えていただきました。今回は簡単に作れて、持ち運びも便利、プリザーブドフラワーとクリスマス飾りがとても洒落ています。「プレゼントにもう一つ作れたかった!」とみんなの声。

著書紹介

『日本古代女官の研究』

吉川弘文館 2016年10月刊 9000円＋税

伊集院葉子（専修大学文学部非常勤講師）



古代女官とは何だろうか？

地方豪族から献上された娘たち？ 巫女？ 天皇の愛を争う美女群？

これまでの理解は、如上のようなものが主流だった。『日本書紀』などの史書の記述を、そのように読んできたからである。こうして、天皇を中心とする閉鎖的な空間のなかで、父や兄弟たちの野心を実現するために心身を捧げた女性というイメージが作られてきた。

一方で私たちは、古代のわが国では、女性の地位が男性にひけをとらぬものであったことを知っている。父方母方の双方から社会的政治的地位を継承する双系的社会であり、女性でも男性でも能力のある人物が推され、村々から朝廷にいたるまでリーダーとして活躍した。女帝はその最たる存在である。この社会像と、史書にみえる女官像の乖離がなぜ生まれたのか。古代国家が形成されるなかで、女性は、どのような役割を果たしたのか。これが本書のテーマである。

古代は、よく知られているように残存史料がきわめて少ない。本研究は、従来の女官像を形作った既存の史料を再解釈することによって新たな女官像の提示を試みた。内容は「令制女官前史」「律令制下の女官」「女官の変容」の三部構成である。女官の誕生から女房の出現までを緻密にたどると、古代の行政システムに不可欠の地位を占めていたことが明らかとなった。

本書の土台は、専修大学に提出した学位請求論文である。論文執筆中の二〇〇九年一月に大学女性協会からホームズ奨学生に選んでいただいた。大学卒業後、二十年間席を置いた職場を辞し、中年大学院生として細々と研究していた身に、その温情はともてありがたかった。本書は、奨学生としての研究の成果の一部である。それを報告できることを誇りに思っている。

サークル案内

●源氏物語を読む会(Ⅱ)

・第三・第四火曜日

午前十時半～十二時

・津田塾大学同窓会・会議室

・講師・坂上栄美子会員

・連絡先・中山律子

☎(03) 3336-4628

「松風」を再読しています。

●源氏物語を読む会(Ⅲ)

・第二・第三水曜日

午前十時半～十二時

・津田塾大学同窓会・会議室

・講師・坂上栄美子会員

・連絡先・小池朋子

☎(045) 902-9730

「絵合」を読んでいます。

●水墨画教室

・第二木曜日 午後一時半～三時半

・講師・日高絹子(絹紅) 会員

・連絡先・森川淳子

☎(045) 583-3430

2016年度 東京支部新入会員

氏名 出身校

伊集院 葉子 (千葉・専修院)

小田 レイ子 (広島)

建部 静代 (実践)

西村 篤子 (東京・スタンフォード院)

野田 恭子 (熊本商科)

福田 悦子 (成城)

堀内 光子 (東京教育)

(敬称略) (50音順)

お悔やみ申し上げます

五十嵐 康子 様

2016年9月29日 ご逝去

塩沢 正子 様

2017年2月1日 ご逝去

ご寄付いただきました

ありがとうございます

(敬称略)

源氏物語を読む会(Ⅱ) 一万円

源氏物語を読む会(Ⅲ) 一万円

水墨画教室 五千円

支部からの連絡

◇住所等ご変更はお知らせください。

◇会費未納の方はお早めにお願ひします。

◇91歳以上の会員の会費は免除することができます。

◇中野区視覚障害者福祉協会支援の使用済み切手を事務所までお送りください。

《編集後記》

寄稿特集「私とJAUW」に、それぞれ溢れる想いを語っていただき、ありがとうございます。まだ女性の地位が確立されない時代に先駆けて、目標を高く掲げ活動された息吹がひしひしと伝わってまいります。

支部国際奨学生リンレンさんの黒地に赤、黄、緑の刺繍が華やかな民族衣装をカラーで見せました。ありがとうございました。

(編集担当 鷺崎&進士)

ともしび 第61号 発行日：2017年3月2日

編集／発行：一般社団法人大学女性協会東京支部 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889 Email: jauw@jauw.org URL: http://www.jauw.org

制作協力／印刷：株式会社 繁松

※「ともしび」は会員のための情報誌です。外部に向けた転載、引用などは事務所までご一報ください。